

琉球大学学術リポジトリ

グローバル教育支援機構の設置

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩俣, 繁久 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41051

グローバル教育支援機構の設置

狩俣繁久（グローバル教育支援機構開発室長）

平成27年7月1日、琉球大学グローバル教育支援機構が設置された。本機構は、琉球大学の教育の理念と目的のもと、教育水準の向上とグローバル化を図り、学生を入学から進路決定まで一貫して支援し、21世紀型市民および高度人材を育成することを目的に設置されたものである。部局横断型の学生支援体制を構築し、これまで以上に本学の強み、特色を生かした教育、現代的課題に応える教育を推進する。

本機構は、学士課程及び大学院課程の教育の改善及び充実に関する業務を行う授業支援部門、共通教育等の企画、調整及び実施に関する業務を行う共通教育運営部門、グローバル人材の育成及び留学生の教育並びに国際交流に関する業務を行う国際教育支援部門、学生受入の企画及び実施に関する業務を行うアドミッション部門、キャリア教育の企画及び実施に関する業務を行なうキャリア教育支援部門の五つの部門から成る。

これら五つの部門は、これまで異なる組織で運営されていた大学教育センターの科目企画委員会と大学教育改善等委員会、留学生センター、外国語センター、アドミッションオフィス、就職センターを機構のもとに統合することで、有機的な連携を強化し、複雑な問題に迅速に対応する組織として編成されたものである。

既存の全学教育委員会を強化するとともに名称もグローバル教育支援機構会議と改めた。大学院教育の全学的な共通課題に取り組むために設置した全学大学院教育プログラム委員会は、大学院委員会と連携して大学院教育の質の保証と向上を目指す。そして、全学学士教育プログラム委員会とともに、学部入学から大学院修了まで学生、院生の教育支援に取り組む。

本機構は、学部・研究科間の連携を図り、琉球大学の人材育成の中核を担う組織である。すでに設置されて意欲的な取り組みがはじまった研究推進機構、今後設置が予定されている地域連携推進機構（仮称）と協働し、琉球大学の教育、研究、地域貢献、国際化の活性化を進める。

本年度は、第二期中期目標・中期計画の最終年度である。平成28年度からは第三期中期目標・中期計画が始まる。重要な節目の時期に設置された本機構は、学部・研究科をサポートしながら、協働してこれからの琉球大学の教育の一翼を担う。

いまはまだ新たに設置された機構への移行の途中にあり、大学教育センターから改称したグローバル教育支援機構開発室で第三期中期目標・中期計画が始まる来年4月に向けて詰めの作業を行っている。

大学教育を取り巻く状況は大きく変わった。今後さらに大学入試制度の改革なども予定されている。初年時教育の充実、アクティブラーニングのより一層の推進、クォーター制を含む柔軟な学期制の導入、社会のニーズ、学生のニーズに応えながら、新しい社会に迅速に適応することが求められている。一方で、“人”が“人”を育てるという大学教育の本質は変わらない。学生が自ら学び、成長していくことを支援する仕事は変わらない。“彫った仏に魂を入れる”のは“人”である。